

第1回 読みきかせの達人が選ぶ

親子で読んでほしい絵本大賞

発表

「親子で読んでほしい絵本大賞」がJPIC 読書アドバイザー123名の投票により決定しました。
400冊*の中から12作品をノミネート。それらに寄せられた推薦コメントを紹介します。
また、同時期に発行された児童書・YAの中から、編集部厳選6作も紹介します。

撮影/J.SAKURA (コメントを寄せていただいた方の敬称略、順不同)

★向田邦子、角田光代、西加奈子。本好きならきっとワクワクする名前が並びます。この作品を教科書で読んだ方も多でしょう。昭和の戦争を令和の子たちにも伝えたいですね。戦争中の家族の絆に心打たれます。

(24期 万年真衣)

★中学校の教科書にも採用されている、直木賞作家向田邦子の有名な短編を、これまた直木賞作家である角田光代と西加奈子が絵本に。人の顔は描かずに土間に並んだ下駄だけで物語る表現方法も秀逸で、読みきかせにぴったり。

(23期 山田朋子)

★原作は、向田邦子の涙が止まらない代表作。戦時中、遠く離れた子どもを思う父親と、疎開先の幼い妹のエピソードです。子どもに伝えられる絵本になりました。

(7期 渡辺裕己子)

★気難しい父親が、幼い娘をひとりで疎開させることへの心配が、痛いほど伝わってきました。素直にマルとバツで様子を伝えてくる娘の純真さにも心打たれます。戦争のもたらすつらい側面を親子の交流から理解でき、親子でその気持ちを語り合えたら、と思いました。

(26期 瀧澤有希子)

★小学校高学年以上におすすめ。絵と文からいろいろな感情が湧き出てくる感じがします。親子で読んで、私たちの幸せとは何かを感じてほしい絵本です。

(26期 谷川志穂)

★西加奈子さんは人々の表情や戦火の街をまったく描いていません。末娘を抱いて慟哭する父親が蹴散らかした下駄と、汚れた足の裏を描くことで、戦争の悲惨さを強く想像させます。字のないはがきの絵が、平和の尊さを強く訴える1冊だと思います。

(25期 二田水ゆかり)

★○だけのはがき、×だけのはがき、やがてそれも来なくなる。疎開先の妹のはがきから感じる世相とぶっさらほうな父親の愛。向田邦子の名作を角田光代の文体で。絵本化でより幅広く子どもたちにも読んでほしい作品です。

(11期 大谷知子)

★直木賞作家3人による素敵な共演！向田さんの戦時中の実話を、平易でありながら切々と伝える角田さんの文と、西さんの大胆な構図と色彩の画が見事。教科書掲載される名作が、絵本独自の味わいに昇華され心に響きました。

(25期 川瀬利恵)

★戦争中のエピソードでありながらも家族の愛情の機微を描いたいい作品です。向田作品をこのおふたりでこんなにも素敵にリライト！アーサー・ピナードさんに続く、時代に即した戦争の伝え方だと思います。

(4期 児玉ひろ美)



大賞

字のないはがき

向田邦子 = 原作
角田光代 = 文
西加奈子 = 絵



小学館

『字のないはがき』
原作/向田邦子
文/角田光代
絵/西加奈子
1,500円(小学館)

親子で読んでほしい絵本大賞とは

親子でもっと絵本を楽しんでほしい！ いい絵本を親子に届けたい！との思いを込めて、JPIC 読書アドバイザークラブ(JRAC)により創設されました。
選出方法：JRAC 会員40名からなる選考委員が、「この本 読んで！」2019年春号～冬号の4号で紹介された新刊絵本400冊の中から大賞候補作12作品を選出。それを、JRAC 会員有志が読み、12作品の中から1～3位を選んで投票しました。
※ JPIC 読書アドバイザークラブについての詳しい説明は、p61下部に記載しています。



※この4号で紹介された「新刊100」から選ばれました。